

平成30年度 第7回教育委員会定例会

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第18号 平成30年10月1日付け教育委員会職員人事異動について</p>	<p>教育委員会職員の異動を報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	

平成30年度 第7回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成30年10月9日（火）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後3時05分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員長 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教育委員 田之上 厚美</p>	<p>教育総務課長 紺屋 昭男</p> <p>学校教育課長 明石 浩久</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成30年度第7回教育委員会定例会を開会した。

## 2 平成30年度第6回定例会会議録の承認

承認

## 3 議 事

報告第18号 平成30年10月1日付け教育委員会職員人事異動について

## 4 その他

なし

## 5 委員並びに教育長及び課長報告

## 6 閉 会

議事内容等

3 議事	報告第 18 号
教育総務課長	平成 30 年 10 月 1 日付け教育委員会職員人事異動について 平成 30 年 10 月 1 日付け教育委員会職員人事異動について、その内容を報告した。
葛迫委員	異動があった職員については、文化会館での勤務になるのか。
社会教育課長	異動があった職員は、国体推進係において勤務するものだ。
葛迫委員	わかった。また、係長に兼務辞令が出たようであり、大変だとは思いますが頑張っていてほしい。
教育長	いずれ、新たに係長が配置されると思うが、一定期間大変なところではあるが頑張ってもらいたい。
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	教育委員並びに教育長及び各課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「柘原小学校運動会について」  9 月 23 日（日）、柘原小学校の運動会に参加した。当日は、非常に良い天気になり、子どもたちも開会前から、てきぱきと動いていて、いつになく活力が感じられた。  テントの数も多く、それも整然と配置されていた。それと驚いたのは、トラック一周に、きれいに咲いたヒガン花が等間隔に植え込まれていて、華やかなステージを作っていた。  今年度は 1 年生が 9 名入学したことで、たいへんな児童数のボリュームアップになり、今までにないエネルギーを感じた。運動会では、やはり人数が多いということは、集団での存在感というか、充実感が違うと思えた。  プログラム全体を見ても、もちろん地域の方々の支援の上でのことだが、子どもたち全員が、一つの目標に向かって懸命に取り組んでいるという、その熱気が各所に感じられた。あれも、これも、すべてのプログラムにわたって精一杯やれたのは、子どもたちの大変な努力と真剣な取組の結果であると思った。是非ほめてあげてほしいと思った。</p> <p>2. 「牛根小学校運動会について」  10 月 1 日（月）、牛根小学校の運動会に参加した。学校に他の委員より早く着いたと思っていたが、既に中谷委員、田之上委員が到着されていた。</p>

中谷委員から委員のバトンを引き継ぐ、田之上委員へのリハーサルということであった。さすが、中谷委員と思った。

台風一過の快晴で、空気の澄んだ最良のコンディションであった。校庭の前方に迫る山の緑が、いつになく瑞々しく鮮やかに感じられた。

昨年は100回記念の運動会ということで、地域の方々の盛り上がりが大変なものであったが、今年は全員参加の文字もなく、平日であったこともあり、子どもたちが主役という感じで、プログラムがひとつひとつ、丁寧に進行されていた。

どの地区もそうだが、地域の方々が学校を大事にする。子どもたちを大切に、「地域みんなで見守り育てる」という強い気持ちを、今年の運動会でも充分に感じる事が出来た。

田原委員

1. 「新城小学校の運動会について」

9月23日（日）、新城小学校の運動会に参加した。寒くなく、暑くなく、さわやかな秋晴れ、素晴らしい絶好の天気にも恵まれた運動会であった。

24名の子どもたちは、元気いっぱいの演技を見せていたが、それを側面からさらに盛り上げていたのが、地域の元気なお年寄りの方々であった。

地域の方々が、競技の係を積極的に引き受けて、先生方と一体となって中学生や高校生も活動している姿を見て、素晴らしいと思った。我が水之上地区でも参考にしたい一面であった。

2. 「市制施行60周年記念式典について」

10月7日（日）、文化会館いっぱいのお来場者を前に、市長あいさつ、たくさんの方々の市功労者への表彰、そして3名の国会議員があいさつをされ、改めて垂水市の発展と歴史の重みを感じたひと時であった。

話を聞きながら、垂水は小さな町であるが、文化芸術面、社会経済面においても多くの偉人や功績のある方々を生み出していることを改めて感じた。このような風土や環境を大事にし、それに続く人材を育てていくことが私たちの次の使命なのかなと思うところであった。

葛迫委員

1. 「新城小学校秋季大運動会について」

9月23日（日）、空気の澄み切った秋空の中で、新城小学校運動会は校区と合同の運動会だった。

全校児童の短距離走から始まった競技は、校区の大波ボール送りや、城山学園との共同競技に、苦戦する児童の姿がほほえましく、新城校区の地区の一体感を感じる運動会であった。

2. 「明治維新150周年 日本洋画の夜明けについて」

9月28日（金）、鹿児島市立美術館で「明治維新150周年 日本洋画の夜明け」と題した展覧会の開場式に参加した。

この展覧会は、山岡コレクション（ヤンマーの創業者の山岡孫吉さん）を中心に、幕末から明治を生きた画家の展覧会である。

鹿児島出身の床波正精（とこなみまさよし）の「西郷肖像」や黒田清輝、

和田英作などの作品など113点が展示されているが、特に気になったのは、日本で最初の洋画家とされている、高橋由一の「鮭図」をどうしても私は観たかった。

高橋由一の「鮭図（さけず）」は、当時中学生だったときの教科書に掲載されていて、とても興味があった。教科書で観た「鮭図」は東京芸大が所蔵する作品であり、今回出展の山岡コレクションの「鮭図」は同様の構図で描かれているのだが、板に描かれ、板の特長を生かしているところに特徴がある。印刷物と違って、板の細かい目に注目すると、板の傷や木目の臨場感が観る人に伝わってくる。本物を観るということは、そこに描く人と、観る人との繋がりが生まれてくる。非常に説得力のある展覧会ではないかなと思えた。

### 3. 「市制施行60周年記念式典について」

10月7日（日）、市制施行60周年事業に出席し、式典の第2部にはNHK大河ドラマ「西郷どん」に出演されている本市出身の俳優「池田倫太郎さん」のトークショーがあった。

ドラマを創る制作者を絡めてのトークショーであり、舞台裏を覗かせてもらうことで、これからの「西郷どん」を観る視点が増えてきたなど感じたところだった。また、この大河ドラマ「西郷どん」には、垂水に関わりのある方々がいらっしやったことに、うれしさも感じることであった。

田之上委員

### 1. 「体育祭、運動会について」

教育委員の辞令を頂いてから、一週間経った。私自身、他の委員も担っている関係で、この9月から10月は3校の運動会に出席させていただいた。

その中で、垂水中央中学校の体育祭では、雨天による順延で平日開催となったが、大変良い天気となった。

中学生になると、「自分たちで作り上げていくのだ」ということで、競技や役員にしても、きびきびと動き、一生懸命やっている姿がすごく印象的であった。

開校9年目となるが、新しい伝統を着々と作り上げているのだなど、改めて感じるどころであった。

また、水之上小学校では万国旗が校庭に張られていて、小学校の運動会だなという雰囲気を感じた。水之上小学校は児童数もやや多い学校のため、子どもたちだけの運動会でも、ものすごく活気があり、見ていてもわくわくした。

ゴール近くの本部席から、子どもたちに声援を送る校長先生も印象的で、大変盛り上がった運動会であり、地域の方々や保護者を交えた綱引きがあるなど、大変見ごたえのある運動会であった。

先日の台風で、鹿屋市の祓川小学校の大木が倒れたことがニュースになっていた。運動会などで学校に行きながら見渡すと、「ああ、学校は大きい木があるのだな。」と改めて感じ、また、大きい木はそれなりに年数が経ち、老木なのだと考えながら、樹木の管理もしていただかなくては、いけないのではないかと思った。

1. 「市制施行60周年記念事業で思ったこと」

記念事業の中の、作文受賞者の代表で読んだ、小学生の児童を先ずほめたいと思った。代表で読むことになったことから、リハーサルを行った。

最初は思うように表現できないようであったが、本番当日は、その子が今持っている精一杯の力を発揮して、作文を朗読してくれたことが嬉しく、また議員の方々が、子どもの表情を見て、うなずきながら、笑顔で聴いてくださる姿を拝見し、ありがたいと思った。

2部の「西郷どんトークショー」で、池田倫太郎さんが出演されていた。池田倫太郎さんの魅力もさることながら、司会をされたNHKの女性アナウンサーも素晴らしかったと思った。なぜならば、池田倫太郎さんの魅力を会話の中で「彼らしさ」をうまく引き出したのは、NHKアナウンサーの力ではないかと思ったからだ。

司会者みずから、池田倫太郎さんのことを事前に良く調べていたと思う。相手のことを知らないと、なかなか質問を投げかけたり、うなずいたり、同調したりすることはできないと思った。若い司会者ではあったが、見事に池田倫太郎さんの魅力を引っ張り出すことができたのではないかと思った。

2. 「宝くじまちの音楽会について」

宝くじまちの音楽会で、『あみん』のコンサートがあった。極端に言えば、ヒット曲は少なくても良いと思う。それは、歌手の皆さんがコンサートに向かう、真心やひたむきさがあれば、コンサートは成立するのではないかと思った。

今回のコンサートは、巧妙に組み立てられているのではないかと感じた。

コンサートの前半は、観客がほとんど知らない曲だからこそ、「わあ、一生懸命『あみん』が歌っている。」と思い、観客も一生懸命聴き、「『あみん』はこんな歌を今、歌っているのだ。」と観客が感じ、第2部では、垂水の子どもたちやママさんコーラスとのコラボが始まり、だんだんコンサートも盛り上がっていき、代表曲の「待つわ」を歌い始める。「夢をあきらめないで」をアンコールに持ってくるなど巧みであったと思った。

ヒット曲は少なくても、どれだけ真心を持って誠心誠意やりきるかということ、このことは教育にもつながる気がする。

学校の特色は三つも四つもなくても、一つか二つあれば良いと思う。そのことに対し誠意を持って、真心を持ってどれだけやるかということではないか、教育にも通じるものがあるのではないかと『あみん』の歌を聞きながら思うことであった。

3. 「彼岸花について」

彼岸花は不思議な花だなと思う。季節を忘れずにちゃんと咲く。なぜなら、わたしは、今年は「秋は来ない」と思っていた。しかし、彼岸花はあの時、あのタイミングを見計らって一斉に咲く。それが見事だと思った。

今年は酷暑だし、咲かないとか、まだ涼しくなってから咲くなど、咲く時期が違っていいと思うが、彼岸の時期に咲く「彼岸花」はすごいなと思い、感動した。

これからまだ実りの秋、学校も一生懸命頑張っていてくれると思うので、教育委員の皆様方にも、学校行事等に参加していただき、学校の応援

団として、時にはまた厳しいご指摘等もいただきながら、子どもたちのため、学校がより良くなっていくためにご意見を賜りたいと思う。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長

9月11日から10月9日までの主な行事等について報告。  
併せて、11月12日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会